

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課	
施策	22	商業・サービス業の振興	評価 責任者	及川 隆	内線 3710
小施策	22-2	ロジスティクス機能の充実	評価 シート 作成者	高橋 久幸	内線 3711

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
生鮮食品などの出荷団体や小売店などのニーズに対応した市場の役割が求められており、品揃えの充実と集荷力の向上を図るとともに、公正かつ迅速な取引を確保し、消費生活の安定を図っていく必要がある。		生鮮食料品等を安定的に供給するため、出荷団体や小売店などとの連携を強化しながら、品揃えの充実と集荷力の向上を図り、活発な市場取引を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
流通業者		効率的なモノの流れが促進される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 中央卸売市場年間取扱高	百万円	↗	当初値 (H25) 34,844 R1目標値 35,000 R6目標値 35,000		・平成29年3月に作成した「市場活性化ビジョン2017」により、場内業者と開設者が一体となって活性化等に取り組むことにより、市場の役割や魅力の発信を行うことが出来た。
			・平成30年度は、盛岡市中央卸売市場開設50周年を迎え、記念式典を開催したほか、開設50周年記念誌を発行したことなどによる。		
問題点			問題の要因分析		
・青果部、水産物部とも取扱量・取扱高の減少傾向が続いている。			・少子高齢化・人口減少による食料消費量の減少や消費者ニーズの多様化等により、卸売市場の経由率が減少していると考えられる。		
指標② 卸売・運輸・通信業者数	事業所	↗	当初値 (H24) 1,619 R1目標値 1,700 R6目標値 1,780		・卸売・運輸・通信事業者数は、基準年と比べて増加してきている。
			・消費者ニーズへの対応のため、多様な流通形態が形成されているものと考えられる。		
問題点			問題の要因分析		
・卸売・運輸・通信事業者数は、増減があるものの基準年と比べて増加しているが、市場の年間取扱高は減少しており、生鮮食料品の安定供給、効率的な物流に対する市場の役割が相対的に低下してきている。			・少子高齢化・人口減少による食料消費量の減少 ・消費者ニーズの多様化 ・国産農林水産物生産量の減少 ・卸売市場の経由率の低下		

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
★「市場活性化ビジョン2017」の令和元年度行動計画を場内業者と一体となって策定し、その着実な実行に取り組む。 ★改正市場法に対応する必要があるため、活性化ビジョンの中間年度でもあるため、事業者と一体となり、市場活性化ビジョンの見直し作業を進める。	
☆1 盛岡市公共施設等総合管理計画による個別計画として、新たに(仮称)盛岡市中央卸売市場施設・設備保全(長寿命化)計画を作成し、市場機能の維持及び適正化を図る。	
★「市場活性化ビジョン2017」の令和元年度行動計画を場内業者と一体となって策定し、その着実な実行に取り組む。 ★改正市場法に対応する必要があるため、活性化ビジョンの中間年度でもあるため、事業者と一体となり、市場活性化ビジョンの見直し作業を進める。	
☆1 盛岡市公共施設等総合管理計画による個別計画として、新たに(仮称)盛岡市中央卸売市場施設・設備保全(長寿命化)計画を作成し、市場機能の維持及び適正化を図る。	